



## 持続可能な自治会活動に向けて、課題解決のヒント

全国の自治会で、加入率の低下や担い手不足が課題となっています。地域に住む人々の生き方や暮らし方が多様化し、自治会活動もまた、それに合わせて変化する時代です。共働き世帯や単身世帯、子育て世帯など、多様なニーズに応える活動や、様々な人々が参加できる運営が求められています。

しかし、我孫子市内の女性自治会長は、ずっと全体の1割台前半のまま、つまり10人中約9人が男性です（下図参照）。人口の半分しかいない男性だけで仕切っていては多様性は期待できません。

そこで、女性のみなさんも自治会長を務めてみてください。「会長は男性」という決まりはないはずです。「役職には世帯主が就く」という風習や「年長者でなければ」という思い込みがあるかもしれません。多様性を阻む決まりごとや風習は見直してみてもいいでしょう。忙しいことを理由にできないのは男性も同じです。自分には無理だと思っても、もともと得意な人などいるはずがありません。誰でも回ってきたら引き受けられる、そんな体制を目指していきませんか。

また近年は自然災害発生時の経験から、地域での防災が極めて重要であること、しかし防災分野に女性の視点が全く不足していることが、改めて指摘されています。多くの自治会に設置されている自主防災組織の運営を決定する場にも女性を配置していただけるよう、働きかけをお願いいたします。

《担当課:秘書広報課 男女共同参画室》

我孫子市内の  
自治会長女性比率と  
女性自治会長数  
(各年4月1日現在)

